
儚き想いをこの胸に

千春

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

儚き想いをこの胸に

【Nコード】

N6028C

【作者名】

千春

【あらすじ】

桜舞う並木道で出逢った青年に一目惚れをした美優。しかし彼には別に想う人がいた・・・桜舞う下で出逢った2人の儚くも美しい恋物語

ブローグ

「ねー！ちょっと早いつて！」

「そんなこと言つてたら遅刻しちゃうでしょ！？」

ひらひら ひらひら

《ドン！！》

「あ、」

「美優！」

ひらひら ひらひら

「・・・？」

「大丈夫？」

「・・・・・・」

「・・・おい？」

「！あ、だ、大丈夫です！」

「そう。今度から気を付けろよ」

「あ……」

ひらひら ひらひら

「美優？」

「由紀……」

「大丈夫？ 全く、なーにが気を付けろ、よ。お互い様じゃない。ねえ？」

「うん……」

ひらひら ひらひら

これが、彼と出逢った桜が舞う並木道……

第一章 1・入学式

入学式。

それは、誰もが心躍らせる日。
もちろん、私もその一人だ。

「
」

鼻唄を歌いながら始業式の会場に向かう。

今日から大学生。そう思うとウキウキしてならない。

これから、楽しい大学生生活が始まるんだと思うと昨日は夜も眠れなかった。

そして今も、どんな楽しい毎日が始まるのかとワクワクしていた。

そう、あの事を聞くまでは・・・

「美優！」

「由紀！」

「美優・・・」

「おはよう、晴れててよかったよね。それにしても今日から大学生かあ。どんな毎日になるんだろうね！ねえ、由・・・」

「美優！！」

由紀は私の言葉を遮って大声を出した。

私は驚いて、由紀を凝視する。
どうしたのかと由紀に尋ねると、由紀は小さく深呼吸して私に向き直った。

「美優、落ち着いて聞いてね？」
「う、うん……」

由紀の声音が普通ではないことを悟った私は素直に頷き、由紀の次の言葉を待った。

「あのね……美優……」
「ど、どうしたの？」
「美優は、私の家がどういう家系か、知ってるよね？」
「へ？うん、医者家系でしょ？」

由紀の家系は代々、医者の家系だ。
その由紀も将来は家を継ぐべく、この大学の医学部に入っている。
ちなみに私は法学部だ。

由紀とは幼馴染で、保育園のころから仲がいい。
私達の両親も仲がよく、たまに一緒に旅行に行ったりもする。
そんな由紀は昔から冷静沈着で、突っ走ってしまう私のブレーキ役

だ。そんな由紀が、ひどく泣きそうな顔でいる。
いったいどうしたというのだろう。

「さっき、お母さんから連絡があつて・・・」

「由紀？」

「み、美優の・・・家族が交通事故に巻き込まれて・・・死んだつて・・・」

「・・・え？」

世界の、止まった音がした。

2・毎日

「相澤病院」

「お母さん！お父さん！」

美優は由紀の知らせを聞いてすぐに病院へと駆け付けた。病院に着くと由紀の両親の相澤夫妻に霊安室へと案内された。それが、どういう意味なのか、誰にだって理解できた。

「手は尽くしたんだが・・・」

「ごめんね、美優ちゃん・・・」

美優には2人の声が聞こえていなかった。

それから数日後、お通夜や葬式を終え、少し落ち着きを取り戻した美優。

美優はいま、相澤夫妻が用意してくれたアパートに一人暮らしして

いる。

以前、両親と住んでいた家には思い出がたくさんあって辛くなるから、ということだった。

由紀の両親が管理しているアパートなので、事実上、美優はタダで暮らしているのだ。

「美優、おはよう！」

「z・・・z・・・」

「・・・起きなさい！」

「うわっ！」

毎朝、これの繰り返し。

朝に弱い美優のために由紀が毎日迎えにきてくれるのだ。

「まったく・・・いくつになっても寝ぼすけね！」

「だあって・・・」

「だってじゃない！遅行するから早く着替えて！」

「はあい・・・」

ぶつぶつと文句言いながら着替える美優。

着替えると2人はダッシュで学校へと向かう。
そんな毎日。

放課後。

美優は部活へ、由紀は家へと帰る。

「じゃ、また明日ね」

「うん、バイバイ美優」

「バイバイ由紀」

短い会話を終わらせると部室へと急ぐ美優。

「こんにちは」

「ああ、高瀬」

「橘先輩、こんにちは」

「ん、こんにちは」

たちは
橘秦。

美優の好きな人。

でも彼には好きな人がいる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6028c/>

儚き想いをこの胸に

2011年1月11日03時43分発行